

山麓探偵団通信

7月号

平成20年7月号 (2008-7)

朝晩の気温が低く、日本中が変則型梅雨におおわれています。こう何日も同じ陽気がつづきますと、人間のほうも、突発型多様性人格に変則しそうですが、みなさま、日常性をいかが保持していらつしやいますか？

六月の探偵団は、戸高雅史団長にお願いした一泊コースでしたが、梅雨空もありがたく思えるような内面の充実した二日間を過ごせたいです。

参加者はたった四名と少なくてもったいない環境でしたので、ぜひとも来年は、申し込み一番乗りを期待しております。

参加者の感想

昨年に引き続き二度目の“野営ツアー”に参加してきました。

今年“満天の星空を楽しむ富士山双子山のコース”という企画に惹かれて申し込みましたが、当日はあいにくの曇り空。

夜半から翌日にかけて大雨が予想されていたこともあり、急遽“沢コース”への変更となりました。

今回の参加者は団長と世話役のあみんマスターを含めて五人。団長が参加者の顔ぶれをみて、いずれ雨が

降るならば“焚き火”があつたほうがいだろうとの心配りをしてくれたのでした。

もちろん全会一致で決定。

あみんに集合し、団長からの説明を受けて平野の裏側から山に入り、沢を目指したのですが、意外と早く目的地に着くことができてその距離感に驚かされました。(昨年のコースよりもはるかに近かつたのです。)現場に着くと、指示もないのに手慣れた動作でサイトを設営してゆく五人の精鋭達。



<沢で迎えたすがすがしい朝>

大きなタープが張られ、薪が集められ、ノコギリで切断されてゆく。シエフは黙々と夕食の準備を進めている。焚き火の煙とともに、うまそくな匂いが夕暮れの沢へ流れてゆく。準備が整い、ワインで乾杯をする。と、しばらくして雨が降り始めた。火を囲みおいしい料理で会話が弾む。火の近くにぐつと近寄り、いつの間

にかセッションも始まった。五人が創る音と会話が止まらない。シエフが即興で作った数々の料理がさらに宴を盛り上げる。だが“山麓探偵団”の宴はちと、違う。皆、詩人で、哲学者なのだ。燃え盛る炎を見ながら自分自身の内面を見つめる者

我々を取り巻く社会と自然環境について想う者、教育問題や人としての在り方を語らい、此処にいることを素直に喜び、感謝できる大人たち。

雨の夜、タープの下でシュラフに包まれ耳を澄ますと、川のせせらぎや風の音、そして葉を伝わる雨のしずくさえも聞こえてくる。

自分を含めた生命の存在が、より身近に感じられた。日々の生活を忘れてしまいうだった。

翌朝は、ゆつくりと食事をしながらそれぞれの時間を過ごし、サイトを元の状態に戻してから出発をした。沢を登り、谷の急斜面を登り尾根

づたいに歩く。帰りたくない気持ち足を遅くするが、この感動を早く家族に伝えたい思いが背中を押した。このツアーに参加して、またひとつかけがえのない思い出と自信を手に入れることができた。いつも自由

で気持のよいツアーを組み立ててくださる団長と世話役のマスターに感謝します。

ありがとうございます。追・もちろん、来年も参加するつもりです。『I・K』

七月の探偵団活動

「草原をたずねて」

北富士演習場は、自衛隊の演習地であるため、開発されずに残っている草原の中には、貴重な“お花畑”があります。

日曜日と、決められた立ち入り日を活用して、この演習場内を丹念に調査しておられる蓑田さんに、この草原をご案内いただき、その特異な生態系のレクチャーや観察眼のご指導を賜ります。

団長：蓑田尚美さん

活動日：七月十三日(日)

集合：山中湖旭日丘セブンイレブン駐車場に午前九時半。解散は、同地に三時の予定。

参加費：二二〇〇円

持ち物：昼食・雨具・帽子・藪こぎをするので手袋(軍手)・長靴着用(マムシよけ)長靴のない人は、かならず雨具にスパッツ着用・飲料用の十分な水分・ポケット図鑑(任意)申し込みは、二日前まで、メールか電話でお願いします。

* なお、八月は、お休みです。

発行 山麓探偵団 事務局
山梨県山中湖村平野一六九八
電話 〇五五五・六五・七〇二三